

アンケート結果をどうまとめる？

～t検定・カイ2乗検定で説得力アップ！～

2025.7.18



これで本当に伝わる？

表1. 肯定的意見の割合

事前 アンケート	51%
事後 アンケート	56%

たまたま増えた
だけでは？

得点

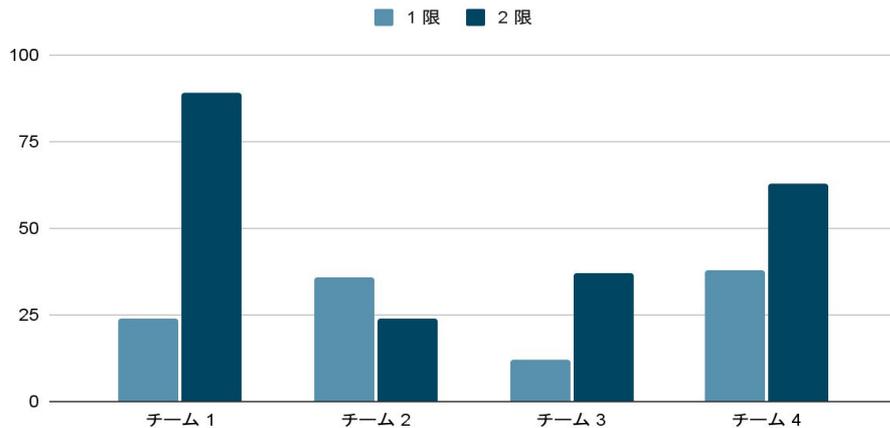


図1. 各チームの1, 2限の得点

何が言いたいの？



ただの結果ではなく『根拠』を示すために

- 取り組みの**効果**
- グループの**違い**
- 本当に**差があるか？**



こんなまとめ方は NG

- ・ 人数が10人だけ

→ たまたま偏った結果になる可能性が高いから。統計的に信頼できる最低目安は30人以上。

- ・ グラフが多すぎ

→ 何を伝えたいのかがぼやけてしまう。見せたいポイントは1つに絞るべき。

- ・ 結論がはっきりしない

→ 検定結果 (p値など) を示さずに「多かったです」だけでは説得力がないから。

統計を使うと何がわかる？

増えたのはたまたま？

本当に違いがある！





t検定でできること

- ポイント:
 - 平均値の差を比べる(数値データ)
 - 例: 男性と女性の満足度スコア
 - 平均値が違って見えても、それが本当に偶然ではなく意味があるかを調べる方法。
 - t検定を使うことで、取組の効果などを説得力を持って説明できる。
- p値が0.05未満なら、その違いは偶然ではなく意味があると考ええる。



実際のやり方：t検定

手順：

1. データシートに入力
2. 結果シートで「両側」または「片側」を選ぶ
3. 実行ボタンを押す → p値を見る



カイ2乗検定でできること

ポイント:

- 事前と事後やグループごとの違いを比べるときに使います。
- 例えば、取り組み前後で肯定的な回答割合が変わったか、男女で意見が違うかなどを調べます。
- 分類データ(肯定・否定など)で割合に違いがあるかを判断する方法です。
- p値が0.05未満なら、その違いは偶然ではなく意味があると考えます。



カイ2乗検定のやり方

手順:

1. クロス集計表を作る
2. 結果シートで「両側」を指定
3. 実行ボタンを押す → p値を見る



人数が少ないと意味がない？

ポイント:

- 30人以上を目安
- 少ない場合は「参考」扱い



グラフで伝えるときに大切なこと

- "見せたいこと" を1つに絞る
- シンプルなレイアウト
- 説明文をつける



アンケート結果をまとめる 3ステップ

1. 比べたいことを決める
2. サンプルサイズを意識
3. 差があるかを確認する
(t検定 or カイ2乗検定)